

わが国近海に見られる浮遊性巻貝類—VI

有殻翼足類・ミジンウキマイマイ科及び擬有殻翼足類

日本貝類学会名誉会長 奥谷 喬司 (Okutani, Takashi)

有殻翼足類のうちミジンウキマイマイ科 (カメガイ科と共に真有殻翼足亜目 Euthecosomata) 及びアミメウキマイマイ科・ヤジリカンテンカメガイ科・コチョウカメガイ科の3科を含む擬有殻翼足亜目 (Pseudothecosomata) について述べる。

ミジンウキマイマイ科 Limacinidae : 殻は左巻き (超右旋*) の蝸牛型。殻表は平滑か成長脈がある程度で一般の巻貝のベリジャー幼生に見られるような彫刻は無い。翼足は亜方形で短い触角葉があるものと無いものがある。日本近海からは既知7種中5種確認されている。[*海産腹足類の大部分は右巻きに巻き下がっていると見ると、巻き上がって一見左巻きに見えるものを超右旋という。]

ミジンウキマイマイ *Limacina helicina* (Phipps, 1774) : 殻高2 mm。螺層は丸く5~6階で細い縦肋が規則的にあるほか、微細な成長線がある。臍孔は広い。殻軸は捻れることはないが、外反する。蓋を持つ。翼足には短い触角葉がある。黒潮前線以北の亜寒帯太平洋に多産する。*Clione* の食餌になることは良く知られているが、サケ科魚類などにも多量に食べられている。

コマガタウキマイマイ *Limacina (Munthea) trochiformis* (Orbigny, 1836) : 殻高1 mm。殻は蝸牛型で、殻高 (殻長) と殻径 (殻幅) はほぼ同じ。殻は普通淡紫色を帯びるが、殻表には成長線のみであるが、体層に微細な螺線が見られる個体もある。臍孔は狭く深い。軸唇は湾曲。翼足に触角葉は無い。黒潮水に普通に見られる。

セイタカウキマイマイ *Limacina (Munthea) bulimoides* (Orbigny, 1836) : 殻高2 mm。螺塔は高く、6階。殻は平滑であるが、縫合は褐色。臍孔は隙間状。軸唇はまっ直ぐで褐色。翼足に触角葉は無い。黒潮水に普通。

ヒロクチウキマイマイ (新称) *Limacina (Thilea) lesueurii* (Orbigny, 1836) : 殻高1 mm。螺塔は低く、殻高 (殻長) より殻径 (殻幅) が大。殻は無色で、殻表には成長線のみがある。臍孔狭いが周囲に鈍い稜角を持つ個体もある。軸唇は真っ直ぐで、殻口は広い。黒潮水域に希産。

ヒラウキマイマイ *Limacina (Thilea) inflata* (Orbigny, 1836) : 殻径1.3 mm。殻は平巻きで、殻表には微細な成長線の他に微小な刻点がある。臍孔は広い。殻口の外唇は嘴状で、上下の湾入部にはガラス様膜がある。黒潮水域に分布し、時にはパッチ状出現をする。

アミメウキマイマイ科 Peraclididae : 殻は背が高い蝸牛型で、左巻き。体層は非常に大きく、殻表には亀甲模様がある。殻口は広く、外唇も広がる、Lalli & Gilmer (1989) は1属7種を有効名としているが、我が国近海の出現種については精査が行き届いてない。

アミメウキマイマイ *Peraclis reticulata* (Orbigny, 1836) : 殻高は6 mm。螺塔はやや高く、殻表は淡い飴色で、亀甲彫刻は明瞭 (体層下半を除く)。縫合下は微小な突起がけば立っているように見える。殻口は広く、底部は尖り弱く反転し、内唇に弧状のガラス様の膜がある。黒潮水域に希産。

ヤジリカンテンカメガイ科 Cymbulidae : 透明で弾力性のある軟骨様の舟型の擬殻を持つ。左右の翼足は癒合して遊泳板となっている。我が国近海の出現種については調査は不十分。時岡 (1965) も「数種が区別されているが同定はすこぶる困難」と述べているほどである。

ヤジリカンテンカメガイ *Cymbulia sibogae* Tesch, 1903 : 擬殻長は65 mm。擬殻は舟型で、数条の棘列がある。遊泳板は中央縁のくびれた亜菱形で、後端に長い鞭状付属糸がある。黒潮水域に普通。

カンテンカメガイ *Corolla ovata* (Quoy & Gaimard, 1832) : 擬殻長は40 mm。擬殻はスリッパ型で殻口は広いが擬殻長の1/2より短い。疣は疎らであるがやや規則的に配列する。遊泳板は卵円形で、擬殻縁を超えることは無い。遊泳板には3種の筋肉系が見える。吻は遊泳板の中段に達し、2触手と2突起がある。暖水域。

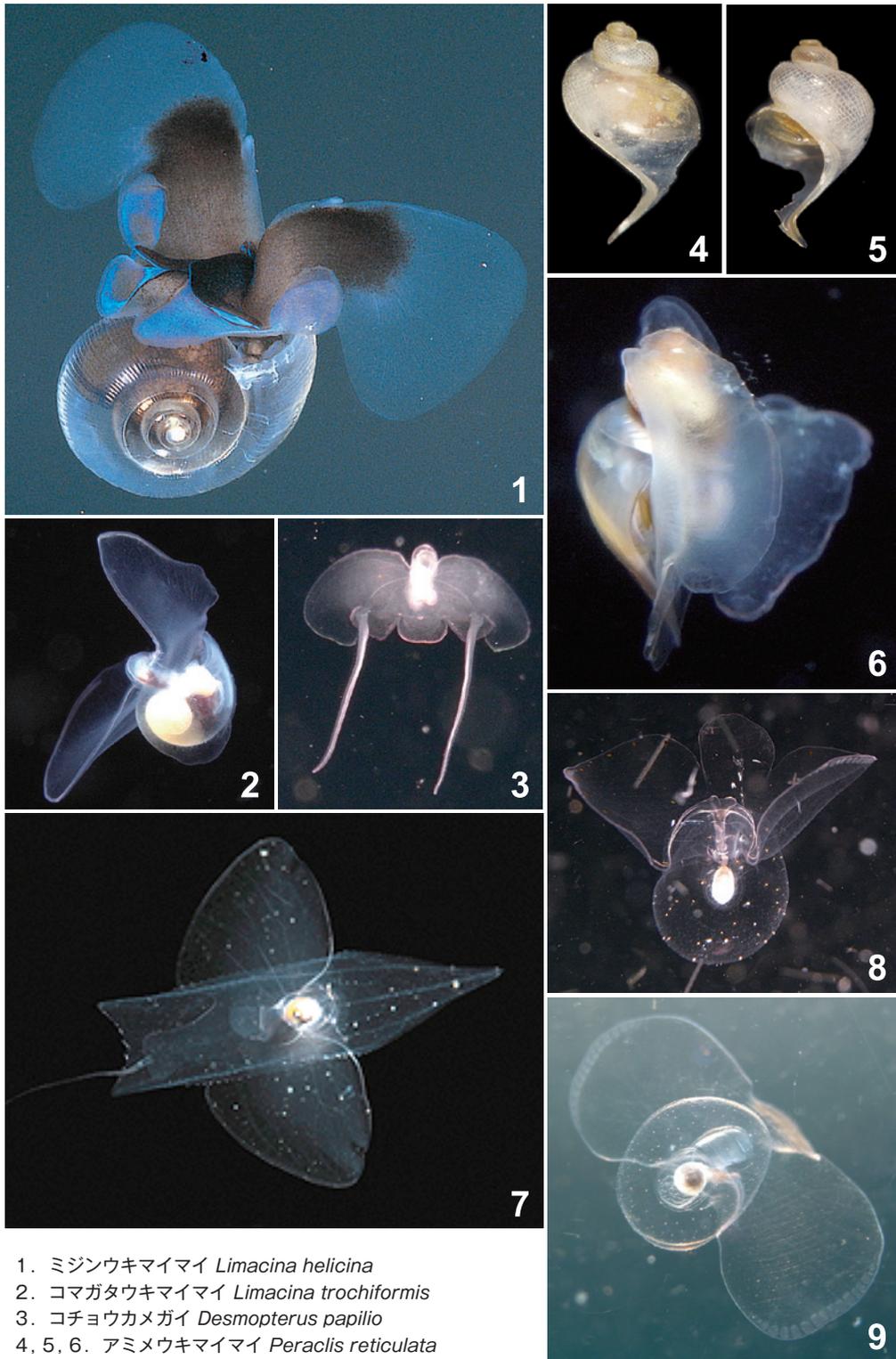
ウチワカンテンカメガイ *Corolla spectabilis* Dall, 1871 : 擬殻長は40 mm。擬殻はスリッパ型で疣が密に分布する。殻口は擬殻長の1/2より長い。遊泳板は亜方形で、擬殻縁を超え、前縁に2つの切れ込みがあり3葉に分かれている個体もあり、縁辺には粒状の粘液線がある。遊泳板には格子状の筋肉系が見える。吻は遊泳板に密着していない。暖水域。

コチョウカメガイ科 Desmopteridae : 擬殻も外套腔もなく、体は円筒状でゆるく湾曲する。遊泳板はチョウの翅型で、筋肉繊維は中央で癒合している。前縁に上足突起があり、後縁に湾入が2つあり、外側の湾入に鞭状付属糸がある。この科は裸殻翼足目とする見解もある。Lalli & Gilmer (1989) は Spoel (1976) に従いこの科には有効名2種と不詳種1の存在を認めている。

コチョウカメガイ *Desmopterus papilio* Chun, 1889 : 体長2 mm。科の特徴と同じ。黒潮水の影響のある暖水域に普通。

参考文献 (I~V 報に引用したものは再録しない)

時岡 隆. 1965. うちわかんてんかめがい. In: 岡田 要・内田清之助・内田 亨 (編) 新日本動物図鑑 (中). 12+803 pp. 北隆館.



1. ミジンウキマイマイ *Limacina helicina*
 2. コマガタウキマイマイ *Limacina trochiformis*
 3. コチョウカメガイ *Desmopterus papilio*
 4, 5, 6. アミメウキマイマイ *Peraclis reticulata*
 7. ヤジリカンテンカメガイ *Cymbulia sibogae*
 8. ウチワカンテンカメガイ *Corolla spectabilis*
 9. カンテンカメガイ *Corolla ovata*
 (1 撮影：楚山 勇；2, 3, 6, 8, 9 撮影：西巻唯史；7 撮影：峯水 亮)